

令和5年度

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 こばやし	代表者	小林大阿	法人・事業所の特徴	運営理念：明るく前向きに相手の立場を尊重、すべての人を平等に、その人らしさを大切に介護サービスに努めます。話しをよく聞ける、待てる介護をします。地域、社会との連携を密に、素直な心で介護にあたります。
事業所名	小規模多機能ホーム こばやし	管理者	池野礼子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	人	2人	人	人	3人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	初期支援では利用者と家族に寄り添う気持ちで対応する。	利用者が初めて経験する事、慣れない事の不安を少なく受け止められるよう接しています。急な利用開始で情報が不十分な時は手探りの対応となるので慎重にしています。	不十分な事を反省し、努力により達成可能な具体的な目標にしました。まだコロナ禍の影響があり地域との交流を自粛した部分がありました。	利用者の自立支援に向け、何が必要か、何ができるか考える。(カンファレンス・評価)。職員全員のケアの質を向上させるための取り組みをする。認知症の基礎知識を再確認し全職員のレベルアップを図る。
B. 事業所のしつらえ・環境	日常の言葉遣いを丁寧に行う。職員同士で声かけあい不適切な対応にならないようにする。	同じ事を繰り返し言い説明しても理解されない認知症状の対応でスタッフ自身の気持ちのコントロールが難しい時がある。スタッフ同士で声掛けし合い交替して協力できています。	一人では戻れない利用者様がスタッフが気づかない少しの時間に屋外に出て行かれる事があり、利用者様の安全のために必要に応じて日中に内鍵をかける事があります。	アットホームな雰囲気の間と笑顔のスタッフの対応を心掛ける。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ感染対策を工夫して事業所外のイベントに参加する。	コロナ事情と天候不順で事業所以外のイベント参加はでき難かったが、天気の良い日には屋外でレクレーションやドライブ等の活動ができました。	電話の対応はできているが、町内で会った時制服で通勤していても挨拶がない時があります。	訪問時、通勤時、事業所に来られた時には明るく気持ちの良い挨拶を行う。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者が在宅生活を継続できるような環境を整える。(災害時の避難経路の確保など)	前年度よりは民生委員さんと連絡が取れました。担当者会議や運営推進会議に出席して頂き話し合いができました。	利用者と家族のつながりが途切れないように、家族の役割は家族にお任せして事業所が手を出し過ぎないようにしています。	家族、地域の方、民生委員と連携・協働ができるように工夫する。一人暮らしの方を招待し事業所見学を計画する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域の情報を入れ事業所が出来る事を探す。	認知症に関して委員さんの身近な体験談を交えて、認知症レベルと介護度の関わりなどを「認知症相談ガイドブック」に沿って説明できた機会がありました。	「介護保険」・「認知症」の言葉は知っていたが関りが無いとまるで他人事で、直接関わる機会が出来て初めて理解できました。	「一人暮らしの方」・「認知症の方」の事例検討を行う。町内の方の事業所見学を計画する。
F. 事業所の防災・災害対策	災害時の介護、特に排泄と体調管理について具体的に考える。	自家発電機、オムツ、数日間の食料などの備蓄。利用者参加の災害時避難訓練2回行いました。	元旦の輪島半島の地震災害では敦賀も大きく揺れ恐い思いをして改めて防災の必要性を実感しました。	防災について話し合う。水害・火災・震災の時の対応、備蓄品目などをより具体的に検討する。